

千年の時を超え――

受け継がれる意志

流鏑馬



1月18日(日)、埼玉県指定無形民俗文化財「秋日吉神社のやぶさめ」が行われた。現在、馬上より弓を射る流鏑馬が行われているのは、埼玉県内では秋日吉神社(ときがわ町)と出雲伊波比神社(毛呂山町)の2箇所のみ。晴天に恵まれた当日は、多くの参拝客が訪れ、中世武士の伝統を伝える勇壮な歴史に触れた。



夕まとう

15時より始まった夕まとう。大観衆が見守る中、神馬が乗り子とともに馬場を5回駆け抜ける。そのうち、矢を射るのは3回。明覚郷は3本の矢を持ち、一の的、二の的、三の的を狙う。4回目は疾走する馬

上で、両手を交互に前後へ伸ばしたり、軍扇を広げる。最後は乗り払いを意味する「ノッパライ」。鞭を投げ捨て、万歳をしながら走り抜け奉納を締めくくる。
矢が的に当たると、乾いた音が夕空に響き渡る――。一瞬の静寂の後、馬場を包み込むように大きな歓声と拍手が沸き起こる。観衆と伝統の技が一体となった瞬間であった。

多くの人で賑わい

伝統の技に歓声

